

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271200703		
法人名	エルダーリビング株式会社		
事業所名	グループホームエルダーガーデン川棚		
所在地	長崎県東彼杵郡川棚町新谷郷2040-15		
自己評価作成日	平成31年1月7日	評価結果市町村受理日	平成31年4月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成31年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である尊厳ある生活の重視を基に、入居者様の意思を尊重できるような環境で様々な工夫をして安心して生活をしていただけるように努めている。
全居室、トイレ洗面台の設置をしてあり、海が見渡せる環境にあるので、眺めがいい所や日光浴ができそうな場所等にソファを設置しゆっくりしたい場所で自由に過ごしてもらえるようにしている。
日課の中では体操やレクリエーション、行事等季節を感じて頂けるように計画を立てて実行している。
看取りの受け入れも積極的に行なっている所で、24時間看護師と連絡が取れるような体制を取り、訪問看護、主治医の往診などの調整を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の眼下には大村湾が広がり、自然に恵まれた環境である。開設当初から「尊厳ある生活の重視」を理念に掲げ、利用者の人格を尊重し、思いや意向を大切に介護に取り組んでいる。各居室にトイレと洗面台があることで、利用者は気兼ねなくゆっくりと生活ができています。医療面では、入居前のかかりつけ医を尊重している他、看取りに積極的に取り組んでいることは、家族と利用者の安心に繋がっている。特に看取り支援は主治医や訪問看護ステーション、協力医と連携しており、今年度、複数の事例がある。職員は、団結して利用者の最期に向き合っている。看取り後も看護ステーションの看護師を交えて振り返り、今後活かすよう取り組んでいることは、高く評価できる。利用者が自宅での生活の延長のようにのんびり寛げる工夫が確認できる明るく温かい事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご本人様やご家族の意向に沿った支援ができるように、それぞれの思いに耳を傾けながら、尊厳ある生活を重視できるようにしている。	理念の「尊厳ある生活の重視」は、開設当初から引き継がれている。代表は、新人職員と面談を行い、理念に込めた思いを伝えている他、職員会議で話している。職員は、毎日の業務を利用者優先で行っているか、常に理念を意識しながら支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	前年度までは地域の運動会や出初式への見学に行っていたが、重度化してこられ付き合いが減ってきている。地域清掃には職員が参加して地域の一員として交流している。	町内会に加入し回覧板や地区総代、民生委員等から情報を得ており、地区の清掃活動には職員が参加している。音楽演奏やフラワーアレンジメントのボランティアが事業所を訪れている。食材は地元の鮮魚店や八百屋から配達して貰い、顔なじみの間柄となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を開いて、民生委員、地域総代、役場、包括、家族代表者、入居者様代表の方々に参加して頂いているのでその際に意見交換を行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、規定のメンバーで開催している。ヒヤリハットや事故報告、行事計画等は全て報告をしている。委員の方々からも様々な意見を頂き、事業所のサービスの向上に活かすようにしている。	会議では活動状況だけでなく、ヒヤリハットや事故報告も詳細に報告している。行政から介護保険の変更点や認知症カフェについての情報提供がある他、参加者からのアドバイスをサービス向上に活かしている。ただし、出席していない家族へ会議の内容を知らせる取組みを行っていない。	会議では、ヒヤリハット報告等を詳細に行っている。事業所が情報開示に真摯に取り組んでいることを家族へ伝えるためにも、会議の概要を家族へ知らせることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いている。介護支援専門員が申請、利用者の受け入れ等、行政担当者との相談を常に行なっている。	町主催の研修に参加している。行政担当者とは運営推進会議で顔馴染みであり、介護保険申請や相談を行い連絡を常にとっている。推進会議でヒヤリハット報告を開示するとともに、事故報告は直接、介護保険課に出向き実情を伝え、信頼関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関は施錠をせずに行動の抑制をしないようにしている。社内研修に取り入れ担当者が勉強会を行なっている。今年はグループホーム協議会の担当者として身体拘束について外部講師を調整して勉強会を行なった。参加できなかった職員には会議で伝達講習をした。	玄関の施錠は夜間のみであり、外に出る利用者には職員が寄り添い庭園を散歩するなど、抑圧感が無いよう努めている。法人内の虐待防止委員会の研修に参加し、身体拘束だけでなく言葉での制止など、具体例を職員は理解している。気になる言葉掛けは職員同士で注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的なことだけではなく、精神的なことによる虐待についても常に気がけ、声かけのしかた等お互いに注意ができるような環境を目指している。会社の介護部門による虐待防止委員会の発足をしている。また、会社顧問弁護士による研修(個人情報保護と一緒に)を受けた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度については知っているが、具体的な内容は理解できていない。今後、会社顧問弁護士による勉強会を計画予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に管理者、介護支援専門員が契約内容について説明を行っている。その後持ち帰って頂き、再度確認をしてもらい不明な点などあれば聞いていただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の際や面会時に要望や意見などがないか伺っている。必要な場合は電話での連絡も行うようにしている。 苦情相談窓口の説明、玄関に意見箱も設置をしている。	重要事項説明書に、苦情受付窓口及び行政の苦情受付機関を明記している。請求書を送付する際、便りを同封している。家族が来訪した際は、コミュニケーションを図り、要望を聞き取っている他、遠方の場合は、電話を掛けている。家族からのアドバイスを支援に活かした事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や申し送りの際に意見や提案を聞くようにしている。 受け入れ時などに、備品の購入や、必要な箇所の手すりの設置等を行なっている。	職員は、医療ベッド等の購入の希望を代表へ伝え、実現している。所内研修の資料を当番制で職員自ら作成することで、運営に関わる自覚を促している。有給休暇の取得もしやすく、労働環境にも配慮を行っている。また、職員による年2回の自己評価を経て人事考課を実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自に年間目標を立ててもらい、年2回自己評価を行っている。 資格の習得に応じて手当が支給されたり、福利厚生として会社運営のスポーツクラブの入会をもらい気分転換をしていただくようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々なテーマについて職員が勉強し、会議時の勉強会で担当をするようにしている。 研修会の参加については、全員が周知できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会へ参加して、意見の交換や交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族が不安に思われていることをしっかり聞き取り、サービスやケアの内容をしっかりと検討し説明を行い信頼関係の構築に努めるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご本人、ご家族のもとに伺わせていただいて、現在の様子やご家族の思いを詳しく聞かせて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族に一番不安に思っておられるかを確認して、それに対してどのように支援していけば良いかを検討し、他のサービスの利用なども提案ができるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の得意なことを把握し、負担にならない範囲でお手伝いをして頂いている。 お手伝いをして頂いた後は感謝の気持ちを表した言葉かけを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の状態を知っていただけるよう、体調の変化や日々の生活などを面会時や電話にて連絡するように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の情報や生活歴を基に、今までの生活環境に近い支援ができるように心がけている。 ご家族や、知人が気軽に面会に来ていただけるような環境作り、外出等の制限はせずに散髪等も馴染みの理容室に連れて行って頂く等、ご家族の協力も得ながら支援を行なっている。	利用者の馴染みの理容室や美容室を大切にしており、職員が付き添ったり、家族が同行している。墓参りや葬式にも家族の協力を得て出掛けている。以前住んでいた地区の知り合いが訪ねて来ることもある。前回の外部評価結果を反映し、利用者の個人ファイルに趣味や希望を加筆する備考欄を新たに設けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段からの体操やレクリエーションを通して、一緒に参加ができる環境や、職員が中に入ってコミュニケーションを図れるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了後もご家族からの連絡等があった際には相談や支援に努めるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自宅での生活の延長で過ごして頂けるように、ご本人の意向に沿っている。上手く伝えることができない方に関しては表情や、行動から気持ちを汲み取るようにスタッフ間で情報の共有をし判断、支援をするようにしている。	職員は、発語困難な利用者の言葉を理解し、根強く会話を交わす他、難聴の利用者には耳元で話したり、利用者の仕草で思いを汲み取っている。帰宅願望のある利用者には、気持ちが落ち着くよう手を握るなど工夫している。また、トイレ誘導は、一律に行わないよう利用者ごとに対応を変え、それぞれの意向に沿った支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族からの聞き取りや、看護サマリーや情報提供書から、これまでの生活歴を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活パターンシートを活用し、水分量、排泄、睡眠時間の把握を行っている。また、介護記録をし、気づきについては申し送りを行い職員間で情報の共有をし個々の把握に努めるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前にご本人やご家族に要望を聞き取り、プランの作成をし、ケア会議でケア内容の共有をしている。また、定期のモニタリングで評価を行い、プランの継続や変更を行なっている。	ケアプランは本人、家族等に暮らし方の希望や思いを聞き職員の見解も反映して作成し、本人、家族の同意を得ている。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、現状に即した見直しを行っている。ただし、業務日誌や支援実績表は詳細であるが、ケアプランとの関連がわかりにくい。	利用者それぞれの支援がケアプランに沿って実践されたか把握するためにも、計画と実績が明白になるよう介護記録の書式の工夫が望まれる。更に、その記録を根拠にケアプランの見直しに活かす取組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個人の介護記録を記入し、普段と様子が異なった場合などは、申し送りをし、全員に伝達できるように申し送りノートに記入し情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズにより、看護師、職員間で解決できるものはすぐに対応し、即座に対応しかねるものは会議時に話し合うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問美容や薬局の薬の配達、訪問看護、魚屋さん、八百屋さん等地元のお店の利用を気掛け施設として様々な方との関わりを継続できるように気掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各かかりつけ医に職員が付き添い、定期受診をし日頃の様子を伝えている。受診の内容については記録を残し、ご家族には面会時や必要に応じて電話にて状況を伝えている。検査等については家族に相談して受診の有無を決める事もある。	それぞれのかかりつけ医の受診を職員が支援し、受診結果は受診記録に記し、家族とも情報を共有している。心療内科の受診、訪問歯科や往診も必要に応じて支援している。急変時は主治医、協力医、訪問看護ステーション等の連携にて、適切な医療受診ができており、薬剤師が事業所に薬を届け、薬剤指導も受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者様の変化に気づき、小さな事でも看護師や訪問看護師に相談をし、指示をもらうようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	適時、介護支援専門員は面会に行き、退院前には看護師と同行し状態の把握を行うようにしている。その際に、主治医や担当看護師から現状の確認をし、退院後も相談をするように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期や重度化した場合は家族等と話し合い、事業所でできることを説明し、必要によっては、主治医による往診、訪問看護の調整をし、十分な話し合いを行い方針を決めている。終末期の勉強会を行ない、看取りに取り組んだ実績がある。	重度化や看取り介護指針を明文化し、利用開始時に説明を行っている。段階を踏んで終末期に関する意向確認、同意書にて看取り支援を行っている。今年度は主治医、協力医、訪問看護ステーションとの連携を得て、複数の看取り事例がある。看取り後の研修も実施し、全員が看取り支援に真摯に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故時は対応方法を全員が周知している。転倒等があった場合は必ず受診を行い、その他の事故に関しても必ず報告書を作成している。救命救急の研修を受けている職員もいる。定期的に訓練を受けることができていないので、計画をしていく予定である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回の避難訓練を実施している。そのうちの1回は消防署や消防団の立会いをお願いしている。災害マニュアルは作成しており、十分ではないが倉庫に備蓄している。	昼夜想定で、年2回火災避難訓練を実施しており、消防署の立会いや地域の消防団の参加がある。飲料水や食料品、懐中電灯などの備蓄もある他、毎日の自主点検や設備点検も実施している。ただし、自然災害等のマニュアルはあるものの訓練にまでは至っていない。また、非常持ち出し品の整備もこれからである。	災害は予想外の発生もあり、いざという時に慌てず確実に避難誘導ができるように、自然災害の具体的な想定を踏まえた訓練の実施が望まれる。また、災害時の混乱を防ぐため、非常持ち出し品の整備も期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	業務優先にならないように、利用者様との会話時は視線を合わせ、ご利用者さま個々に適した声掛けを考えながら行なっている。 ご利用者様が排泄などで失敗された時等は、さりげなくフォローに入り羞恥心に配慮するように心がけている。 個人情報の取扱いに関しては家族の同意を文書で受けている。	職員は、守秘義務の誓約書を事業所へ提出している。家族には、利用者の写真の使用に関して、同意書を得ている。排泄に失敗した際は、周囲にわからないように声掛けし誘導している。ただし、共用トイレに置いているパッドが外から見える状態で収納されている。	共用トイレは、外部の訪問者も利用する場所であるため、パッド類の収納は利用者のプライバシーに配慮したものとなるよう、工夫が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が望まれている事を理解できるように、日常生活の見守りや声かけを心掛けている。 また、ご本人に確認を取ってから行動支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないように常にスタッフ間で声掛けを行い、日課の中でご利用者様の過ごし方を把握、希望に沿った支援ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回、美容師さんにカットに来てもらい希望される方は髪をカットされている。 ご本人が好まれるものを着用したり、整髪などできられない方は職員が援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できるだけ旬の食材を使い、嗜好を考えながら献立を作成している。行事や誕生日会時はお弁当やケーキを取ったりして食事を楽しんでいただけるように工夫している。 食形態などは体調に応じて変更している。 できる方にはお盆拭きやテーブルを拭くなど簡単な準備や片付けを手伝ってもらうこともある。	利用者の状態に合わせて、きざみ食やミキサー食に対応している。誕生日は、寿司、さしみ等を提供し、敬老の日は、特別な弁当で祝っている。焼き芋等季節の楽しみも大切にしている。利用者の中には、テーブル拭きやおしぼりたたみを手伝う人もいます。箸と湯飲みは、各自が持参したものを使用し、家庭の雰囲気大切に支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食ごとの食事量を「主食／副食」で記録し、水分量は生活パターンチェックシート表に記入し一日の食事量、水分量の把握に努めている。 その上で、水分補給など時間を見ながら提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に口腔ケアの声掛けを行い、ご自身で難しい方は職員が介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄がある度に生活パターンシート表に記入し、適時トイレの誘導をし、ご利用者の排泄パターンを把握できるだけトイレでの排泄ができるように努めている。 おむつやリハビリパンツは、ご利用者様の状態に合わせて使用している。	個室内にトイレがあり、プライバシーが保たれ、利用者にとって、安心できる環境である。おむつやリハビリパンツ利用の他、布パンツにパッド着用など個々の状態に合わせ、時間帯によっても種類を変えて支援している。排泄パターンを把握し、誘導する際も利用者の性格を考慮して、対応をそれぞれに変えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食、昼食時に乳製品を摂って頂いている。常に水分補給も気かけ、できる範囲での体操や運動を行なっている。 便秘傾向にあられる方は、主治医や看護師に相談し下剤の調整で便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2～3回を目安にしており体力や体調を考慮して支援している。ご利用者様の状況や希望に応じてシャワー浴や湯船に浸かる等介助をし、拒否される場合は無理強いせず清拭に変更することもある。	週2、3回の割合で入浴を支援している。冬は、浴室と脱衣所の温度差を少なくするよう工夫している。介護度が高く浴槽に入れられない場合は、足浴、シャワー、かけ湯を組み合わせて、温まるよう配慮している。拒否がある場合は、清拭に変更する等、柔軟に対応している。5月には、菖蒲湯を提供し、季節感を大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも居室で過ごしたい方は居室で過ごして頂いたり、職員がいるところが安心できる方はリビングのソファでゆっくり過ごされている。昼夜問わずにご本人の安心できる環境作りを心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を個人ファイルしているので、どういう薬を飲まれているのか把握できるようにしている。 服薬はチェック表を用い、ダブルチェックや、名前を読み上げて誤りがないようにして与薬を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	皆さんで楽しんで頂けるようなレクリエーション、塗り絵などの個人でできる趣味的な活動を通し、できられることの継続と楽しみに繋がるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体力的な問題もあり、遠出ができない為に玄関先での日光浴や、ドライブでの花見等をしている。	事業所のベランダからは、眼下に広がる大村湾を臨むことができ、毎日、景色を眺め気分転換を図る利用者もいる。また、天気の良い日は、利用者が前庭にて日光浴できるよう支援している。花の咲く季節には、病院受診の際の往復を利用して、ドライブし、花見を楽しむなど外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はされていないが、必要時や購入希望がある場合はご家族に連絡や相談をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの希望があった際は、ご家族に電話をかけるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を崩さないようにしている。常に換気、清掃を気掛け清潔感と共有空間での過ごし易さを維持できるようにしている。	玄関や廊下は十分な広さがあり、清潔感がある。リビングは陽当たりもよく、職員がブラインドで光を調節し、掃除や換気を行い、清潔で臭気も無い空間である。利用者は、ソファや椅子で思い思いに寛いでいる。リビングの入口に仏壇があり、これまでの習慣で花やお茶を上げ、朝夕手を合わせる利用者もおり、家庭的な場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を適所に置くことで、思い思いに過ごすことができるような配慮をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームでの暮らしに馴染んで頂けるように、持ち込み品は自由になっている。飾り付けや家具の配置はご本人の好みに合わせるようにしている。各居室内にトイレがあるので、毎日職員が掃除を行なっている。	居室はトイレと洗面台を備えており、本人が気兼ねなく使用できるため、排泄の自立にも繋がっている。自宅から仏壇やテレビ、整理棚など持ち込んでいる。利用者の身体状態に合わせ、医療用ベッドを事業所が準備している。毎朝職員が掃除や換気を行い、臭気も無く清潔で寛げる居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様が自分の居室であることを理解していただけるよう各居室に名札を取り付けている。トイレなどはご本人の状態に合わせた手すりの設置をし、ベットも状態に合わせたものを準備、できるだけリスク軽減でき、安全に自立した際活ができるような環境を提供できるようにしている。		